

事例検討会2

PCAGIP法による事例検討

PCAGIP 法 (Person-Centered Approach Group Incident Process)

ファシリテーターと参加者が協力して、**参加者の力を最大限に引き出し**、その経験と知恵から事例提供者に役立つ新しい取り組みの方向や具体策やヒントを見出していくプロセスを学ぶ
グループ体験

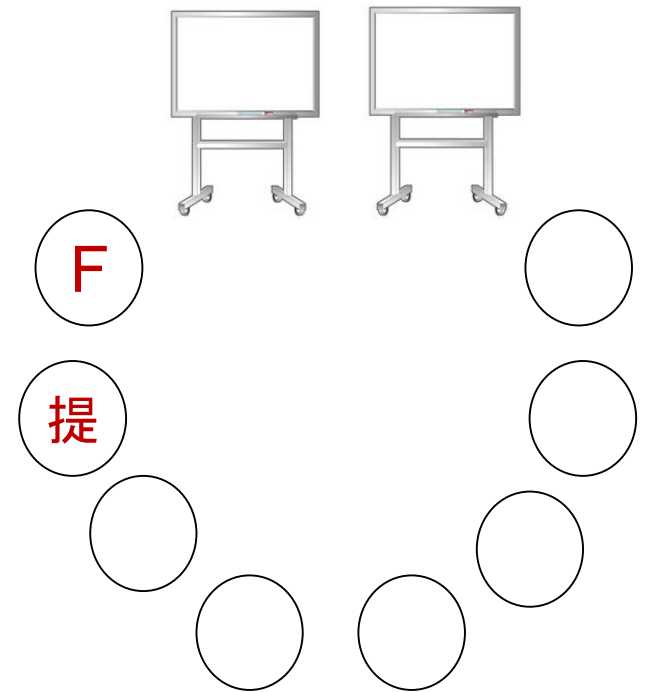
村山 正治=中田 行重『新しい事例検討法 PCAGIP入門 パーソン・センタード・アプローチの視点から』(創元社・2012年)

PCAGIP法の特徴

- 「相手を批判（指導）しない」「メモをとらない」というシンプルなルール
- 指導や助言を受けるのではなく、自分自身で事案を取り扱うための力（資源）を見出すのが目標
- 問題解決に焦点を当てるというより、状況理解の共有と事例提供者の支援に焦点を当てる（ヒントが得られたり、元気が出たらOK）

PCAGIP法の準備

- ファシリテーター1名
- 記録者2名
- 参加者8名程度
- 事例提供者を参加者から1名
- ホワイトボード2枚
- 参加者全員がホワイトボードを囲むように、円陣を作る



PCAGIP法の進め方

1. 事例提供者が「事例を提供した目的」「何を得たいのか」「何を求めるか」を簡単に述べる
2. 参加者は事例提供者と事案の状況を理解するために、「確認したいこと」「気になること」を質問する
3. 質問は1人1問ずつ、順番に行う
4. 記録者は質問と応答をホワイトボードに書く
5. 事例理解が十分に進んだら、意見の共有を行う

批判しない

⇒事例理解に徹する

メモをとらない

⇒場への参加に徹する